

【案件概要】

ソロティ県カティネ中学校における理科実験棟建設計画

1. 計画の概要

被供与団体	カティネ中学校
供与額	83, 554米ドル
署名者	アレロ・ケビン(校長)
計画名	ソロティ県カティネ中学校における理科実験棟建設計画
実施地	ソロティ県カティネ準郡(ウガンダ東部)
供与内容	理科実験棟, 家具
贈与契約署名日	2017年1月17日

ソロティ県はウガンダ東部のテソ地域に位置しており、隣接のカラモジョン族からの襲撃、ウガンダ人民軍(テソ地域を中心に結成された1987年から1992年にかけて活動した反政府組織)や LRA(神の抵抗軍)のテロ行為被害も受けてきたため、未だに社会インフラの整備が他地域に比べ立ち遅れています。カティネ中学校は1998年に設立されたカティネ準郡唯一の政府支援中学校です。当国では、2007年から化学・生物・物理の3科目が中等教育の必須科目として指定され、教育省の定める中等教育カリキュラムでは、全ての理科科目において週1時限の実技授業を取り入れるように推奨されています。現在、カティネ中学校には理科実験棟がなく、一般教室を理科実験室(一度に15人のみ収容可)として使用しています。部屋はとても狭く、1つの授業を4シフトに分けなければならいため、大変効率が悪く、1つの授業で全ての生徒が理科実験を行うためには、他の一般教室に実験器具や薬品を持ち込み行わざるを得ない状況です。本計画では、理科実験棟が建設されることにより、カティネ中学校で理科科目を受講する中学1年から4年までの生徒605人が、生物、化学及び物理の実技授業を安全かつ効果的に実施できるようになります。

2. 贈与契約署名式

2017年1月17日、在ウガンダ日本国大使館において、亀田和明大使とアレロ・ケビン校長の間で贈与契約が署名されました。[プレスリリース\(英語\)](#)

